

**みやぎNPO夢ファンド(A)人材育成支援プログラム
平成18年度助成事業 最終報告書**

書式 4

2007年 4月 29日

団体名	東北HIVコミュニケーションズ
事業名	コミュニティ・エンパワーメント人材育成研修
連絡担当者お名前(ふりがな)	太田 貴(おおた たかし)
担当者 電話	022-298-8532
F A X	022-298-8532
E-Mail	thc@silk.plala.or.jp
助成金を使って行った研修事業について、具体的にご記入ください。 (事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください) コミュニティエンパワーメント・ワークショップ <日付 ワークショップのテーマ 参加人数> 4/15 ポストカードを創ろう(HIV 啓発ポストカード作成のためのワークショップ) 8名 5/26 名古屋に行こう(名古屋の HIV 啓発イベントの内容・手法を紹介) 10名 6/25 EASY!写真展を語ろう(HIV 啓発写真展「EASY!」について意見交換) 3名 7/1 私と LGBT 映画祭 (青森 LGBT 映画祭実行委員長を交えての HIV と人権に関するワークショップ) 7名 8/30 ライブをするってどうよ(HIV 啓発ライブイベントへ向けてのワークショップ) 8名 9/2 Safer Sex Talk (Safer Sex について意見交換と情報提供) 10名 10/14 コミュニティ発! (東京の HIV 啓発グループ「GUTS」メンバーを招いてのワークショップ) 15名 11/17 カムアウト (カムアウトしている牧師・平良愛香氏をゲストにカムアウトについて座談会) 8名 12/23 仙台ゲイシーン温故知新 (仙台のゲイシーンの歴史と現在を考察するワークショップ) 19名 1/20 今年の計画(来年度のワークショップとイベントの企画) 20名 2/17 魅せる肉体、見る肉体(体と健康にまつわるワークショップ) 20名 3/24 友達(陽性者の友達を持つ人たちのメッセージ集を見て友達について討議) 11名	

助成金を使って行った研修事業について、ご記入ください。(続き)

ゲイ向け HIV 啓発イベント「男魂-Men Soul-」の開催

3/24(土) 21:00~翌日 3:00

企画 東北HIVコミュニケーションズ

運営 GUTS、東北HIVコミュニケーションズ・ゲイボランティア

会場 Club SHAFT

内容 HIV啓発写真展「フレンズ+」

HIV啓発ショートムービー「ハダカナココロ」

ライブ&ショー

その他

来場者数 69名(うち招待5名) 参加ボランティア 14名

GUTSスタッフ11名 パフォーマー 2名

コンドーム配布数 約100個

HIV啓発資材(ポストカード)配布数 69セット

当初の成果目標はどの程度達成できましたか。当初目標と比較して記入してください。

申請に記載し成果目標

コミュニティの中で活動中の人物(ゲイバー経営者、クラブイベントスタッフ、イベントの企画者など)に対し、ワークショップへの参加を促し、コミュニティ当事者同士のつながりを創り出す。

ワークショップを通して、コミュニティをエンパワーメントできる人材を育成する。

ワークショップを通じて、コミュニティ自体を魅力ある、求心力のあるものにエンパワーメントし、より多くの当事者に HIV 啓発メッセージを発信できる場を作り出す。

ワークショップにコミュニティで活動中の人物を招くことで、ゲイコミュニティと THCGV のつながりを創り出す。

ワークショップ参加者によるミニ企画をバックアップし(広報、啓発資材の提供など) THCGV への信頼を獲得し、協力体制の強化につなげる。

ゲイコミュニティの中の人物が自由に、多数参加できるしくみをつくり、新たな人材と出会う場を創り出す。

新たなボランティアを募るだけでなく、コミュニティですでに活躍中の人材と協力関係を築き、人材不足を補う。

ワークショップに HIV ミニ講義を組み合わせることで、ワークショップ参加者が HIV 啓発のボランティアとしても活動できるように育成する。

目標の達成度・団体に与えた効果

残念ながら商業コミュニティで活動中の人物のワークショップへの参加はなかったが、3月の啓発イベントを通じて、クラブイベントスタッフとイベントの企画者のつながりを創生できた。

まだエンパワーメントできるとまでは言えないが、多くのワークショップ参加者がコミュニティへ出るようになった。仙台では初めての HIV 啓発を主目的としたクラブイベントを開催。初開催で70名の集客を達成した。

ゲイビーチの中心人物がワークショップに参加。ビーチでの啓発活動への足場づくりができた。

3月の HIV 啓発イベントの企画と運営に THCGV として参画。イベント企画のノウハウを蓄積した。

ワークショップにはのべ139名が参加し、THCGV の人材も多様化した。

ワークショップにカメラマン。3月のイベントに地元パフォーマー2名が参加。多様な人材との協力関係を築いた。

他団体の HIV 啓発企画へのメッセージの寄稿(GUTS 写真展「フレンズ+」)、ゲイ雑誌 HIV コーナーへの登場など、全国的にも活動するボランティアを育成できた。

<p>申請書に記載した成果目標（続き） ワークショップ参加者を電話相談員養成講座へ誘導し、電話相談員の育成を図る。</p> <p>「ワークショップ+HIV ミニ講義」のプログラムにより、楽しみながら HIV の知識を高められる場を創出する。 まず、ゲイコミュニティ向けに試行するが、プログラムが確立できた段階で、一般向けにも展開していく。</p> <p>今回の研修では、コミュニティ・エンパワメントによる、効果的な HIV 啓発が目的であり、ミニ・イベントを実施し、HIV 啓発を行うという目に見える成果が期待できる。 将来的には、ワークショップ参加者が地元コミュニティを巻き込んだ HIV 啓発を展開していくという成果をあげることが目標。 また、今回の成果は、今後、若者向けにプログラムを展開する際の指標としても利用できる。</p>	<p>目標の達成度・団体に与えた効果（続き） ワークショップ参加者から 2 名が電話相談員として活動するようになった。</p> <p>ワークショップの参加者はリピーターも多く、参加人数も増加傾向にあり、参加者に受け入れられやすいプログラムだったと言える。今後、一般向けのピュアエドゥケーター養成プログラムへの展開を考えたい。</p> <p>イベントの来場者は 69 名。14 名のボランティアがイベントの運営にたずさわり、HIV 啓発イベントの企画・運営ができる人材を育成できた。次年度以降、個々のボランティアによる HIV 啓発活動も試み、コミュニティを巻き込んだ HIV 啓発へ向けて人材育成を引き続き行う。</p>
<p>達成できない部分があった場合には、 考えられる原因や、解決に向けて必要なことをお書きください。</p> <p>商業コミュニティで活動する人物（ゲイバー経営者、イベントスタッフなど）のワークショップへの参加がなかった。商業コミュニティで活動する人物は多忙のため、ワークショップへの参加は難しく、別の形での関係構築を考える必要がある。 多数の多様なボランティアが集まり、コミュニティとのつながりは強化できたが、コミュニティのエンパワメントやコミュニティ内での HIV 啓発はまだ十分とは言えない。今後は、この研修でできたコミュニティとのつながりを利用し、コミュニティ内で HIV 啓発に取り組める人材を育成していく必要がある。</p>	

今回の事業を、今後どのように展開していきますか
また、その際に必要なものは何ですか

イベントを企画・運営できる人材の育成ができたので、効果的な HIV 啓発イベントの計画・運営を展開していく。
ボランティア一人ひとりがコミュニティ内で HIV 啓発を展開できるよう、ステップアップのための人材育成が必要である。
今回のワークショップ・プログラムを一般コミュニティへ応用していくには、プログラムを適用するグループの選定や、グループへのアプローチ方法を検討する必要がある。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	150,000	150,000	
参加費	10,000	174,000	3,000円×28名、 2,500円×36名
視察自己負担金	75,000	0	
THC団体負担金	101,000	65,727	
合計	336,000	389,727	

支出の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
講師謝金	100,000	80,000	平良愛香氏、GUTS、 パフォーマー2名
講師旅費	56,000	29,080	平良愛香氏（東京 から1泊）
会場費	19,200	169,560	ワークショップ会 場費23,560円、イ ベント会場費 146,000円
視察研修交通費	140,000	0	
印刷費	10,600	10,950	
消耗費	5,200	45,128	イベントディスプ レイなど
雑費	5,000	55,009	郵送費、荷物搬入 駐車場代、ゲスト 送迎代など
合計	336,000	389,727	